

光鯨会だより

第22号 [平成29年7月]

発行 | 光鯨会会長 小野 徹郎 (S43)

本部長 | 井戸田 秀樹 (S58)

連絡先 | 夏目 欣昇 (H5)

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 名古屋工業大学 社会工学科 建築・デザイン分野内

Mail | koukokai@archi.ace.nitech.ac.jp

Tel | 052-735-7967

HP | <http://koukokai.jp/home>

1 | 大学は今

□新会長就任挨拶—『卒業生が輝きそして大学が輝く』光鯨会

小野 徹郎 (S43) 名古屋工業大学名誉教授



本学の建築学科は、明治38年(1905)に東京大学に続く官立の建築高等教育機関として名古屋高等工業学校が設立され、戦後名古屋工業大学として再出発しました。その後大学院設置、博士課程設置、学部・大学院改革、独立行政法人化などを経て現在の姿に変わってきました。

こうした歴史の中で多くの建築家、建築技術者を輩出し、建築界で大きな評価を得ています。この度そうした伝統ある母校建築系の同窓会会長を仰せつかりまして幾分緊張しています。

私は昭和43年(1968)学部卒、昭和45年(1970)大学院修了後、8年間東京工業大学でお世話になり、昭和54年(1979)母校に戻り、講師、助教授を経て昭和59年(1984)教授に就任しました。学内的には学生部長、共同研究センター長、技術部長を務め、学外的には日本建築学会副会長などを経験して63歳平成20年(2008)に定年退職、名誉教授号をいただきました。その後7年間椙山女学園大学で教授としてお世話になり、平成27年(2015)70歳で定年退職して今日に至っております。

名工大在職中は長い間光鯨会の幹事長を仰せつか

□会長退任挨拶

岡本 賢 (S39) 光鯨会相談役



昨年亡くなられた宮野秋彦先生から突然光鯨会の副会長をやれと言われ何もやらない副会長で2年程たった時に今度は会長をやれと言われたのが2009年の事でした。それから8年間会長を務めさせ

て頂きましたが、その間スターツの関戸さんや大成建設の野呂さん、山下設計の田中さん等のご支援を頂きOBによる特別講義を大学で開催させて頂いたり、関戸さんの発案で名工大ネットワークキャンパス東京の事業を始める事が出来、少しでも光鯨会の

り、光鯨会の組織改革や各種記念事業に携わって中、多くの会員諸氏とお付き合いさせていただき個人的に大きな財産となりました。大学の同窓の結びつきは若い時はそれほど大きなものとは思わないものですが、ある年齢になるとこの結びつきが自分にとってのかけがえのない貴重な財産となっていることに気づきます。その中心にあるのはもちろん母校であり同窓会です。私は長い間大学人として過ごした中で、会員と大学との連携を深めていくことが相互に重要だと思っています。これまで光鯨会では名工大建築フォーラム、鈴木禎二賞などの社会的活動を続けてきています。また東京では岡本会長の折、関戸さんの絶大なるご支援もあって、東京サテライトが誕生し、多くの若い会員の協力のもと運営され今年も名古屋工業大学建築系ネットワークキャンパスの開催が予定されています。こうした現役、卒業生を巻き込んだ活動を継続、拡大して社会に発信していくことで『卒業生が輝きそして大学が輝く』光鯨会を築きたいと思っています。ただこうした活動を継続していくには財政基盤が重要で、その基本は会費です。会費納入率のアップを私の当面の課題として責務を果たしていきたいと思っております。

至らぬ点多いかと思います。精一杯努めてまいりますのでよろしくご協力をお願いいたします。

活動に貢献できたかなと感じております。鈴木禎二賞の活動も軌道に乗り大学同窓会としてはユニークな存在になってきたのではないかと思います。以前は母校を訪れる事は全くない様な状態でしたが光鯨会の活動に参加する様になって、度々母校を訪れる機会を頂き若い先生方や学生とふれ合う機会もあり、又多くの素晴らしいOBの方々とも知り合えて楽しい8年間でした。4000人にもなる光鯨会の会員の方々が建築のあらゆる分野で活躍し大きな業績を挙げている事を知り、大変誇らしく感じられました。この度退任させて頂くことになりお世話になった先生方やOBの方々に深く感謝申し上げ、光鯨会の発展をお祈り申し上げます。

□本部長挨拶

井戸田 秀樹（S58） 名古屋工業大学教授



光鯨会会員の皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

光鯨会では、伝統的に続いていた光鯨会賞の授与や定期的な見学会や懇親会などの会員サービスに加え、組織設計事務所の表彰を目的とした鈴木禎次賞（2009年）、光鯨会名簿のWeb化（2012年）、会員のキャリアサポートとしての光鯨会ジョブマッチングサービス（2014年）、学生のインターンシップをサポートする光鯨会ネットワークキャンパス（2014年）等、多くの新しい活動を展開して参りました。これらはいずれも会員の皆様の多大なご協力の下に成り立っていますが、2009年から8年間ものあいだ光鯨会会長を務めていただいた岡本賢先輩のリーダーシップがあつてのことと思っています。

さて、その岡本会長に代わり、今年度から昭和43年卒の小野徹郎先生に光鯨会会長をバトンタッチすることになりました。小野先生は現在名古屋工業大学

名誉教授であり、光鯨会の本部長（当時の幹事長）のお立場にて長きにわたり光鯨会を支えていただきました。また、最近では鈴木禎次賞の審査員等で光鯨会をいろいろな場面で盛り上げていただいています。さらに小野先生は名工大退官後も精力的に研究活動、社会貢献活動を行い、2015年には日本工学教育協会から著書「建築デザインの構造と造形」に対して工学教育賞を、2016年には伝統建築物の耐震改修実績として日本建築防災協会の耐震改修優秀建築表彰を受けられています。新しい小野会長のもと、光鯨会がますます存在力を高められるよう、幹事一同張り切っております。



これから光鯨会小野会長：耐震改修優秀建築賞表彰会員の皆様のさらなるご支援をよろしくお願い申し上げます。

□母校近況報告

兼田 敏之 名古屋工業大学教授



今年度まで社会工学教育類長・専攻長と教室主任を兼ねることとなりました。よろしくお願いたします。なお、社会工学副教育類長・副専攻長として石松丈佳教授，創造工学教育課程長として井戸田秀樹教授が活動されています。

教員組織の一年間の動きとしては、石松丈佳准教授が教授に昇任されました。また今年3月に楠原文雄准教授(建築構造)が着任されました。全学の役職では、男女共同参画推進センター長として藤岡伸子教授が活動されています。

建築・デザイン分野は、昨年度からの全学再編と新カリキュラムの年次進行のなかにあります。「大括り」の学科である社会工学科に環境都市分野、経営システム分野とともに一つの分野として位置づけられました。しかし学部入試は分野ごとの独立性を保ちながら募集を行っています（定員70名）。

今年の学部入学の1年生は74名。うち国費（相当）外国人留学生が1名，私費外国人留学生1名で，女子学生が21名となっております。また3年次編入生が1名おります。大学院博士前期課程、博士後期課程には49名、1名が入学しています。

建築・デザイン分野の2年次学生は建築系58名、デザイン系15名に所属されました。また、昨年度に発足した六年一貫性の創造工学教育課程（定員100名）においても建築・デザイン主軸の学生9名が所属されており、建築・デザインの専門科目にとともに取組む学友となります。

昨年からの就職活動解禁が6月に変更されたため、原稿執筆時点ははっきりとしませんが、6月末時点で大学院35名、学部が30名であり、求人数も好調で、最終的にはほぼ全員が決まると予測されます。これまで見えにくかった新カリキュラムが年次進行とともに姿を現してゆきます。いろいろな決めごとが続きますが、これまで培ってきた教室の教育研究活動を発展させる構図で取組んでおりますので、光鯨会の皆さまにおかれましては、引き続きのご寛容とお力添えを賜りたく存じます。

□宮野先生を偲ぶ会

水谷 章夫 (S51) 名古屋工業大学名誉教授

光鯨会元会長の宮野秋彦先生が2016年12月7日に93歳でお亡くなりになりました。

ご葬儀は親族のみで執り行われました。先生のご訃報を知った方々から、先生を偲びたいというお声をたくさん頂戴いたしました。そこで、異会(宮野研究室卒業生を中心とした会)の会員と先生とご縁のあった方々にご連絡しました。先生の思い出を語り合いながら、先生の足跡を振り返る趣旨の「宮野先生を偲ぶ会」が、NITech Hall(名工大講堂)にて、午後1時より開催されました。偲ぶ会の進行は、約120名の参加者全員が黙禱し、岡本賢光鯨会会長のご挨拶から始まり、友人代表として元経産省官僚の若木和雄氏、空手部代表として中村匡志(A41卒)氏が弔辞を読み上げました。そして、予めお願いしてありました10名の方々からのスピーチが1時間半ほどありました。宮野先生のご長男の宮野道雄氏から最後にお礼のご挨拶があり閉会となりました。その後、場所を移してライトパーティが講堂ロビーにて行われました。

宮野秋彦先生の長年に亙る光鯨会への愛情に対し、ここに深甚なる敬意を表します。

なお、当日の写真は、北川啓介准教授のホーム

ページの中から見ることができます。



宮野先生を偲ぶ会の様子



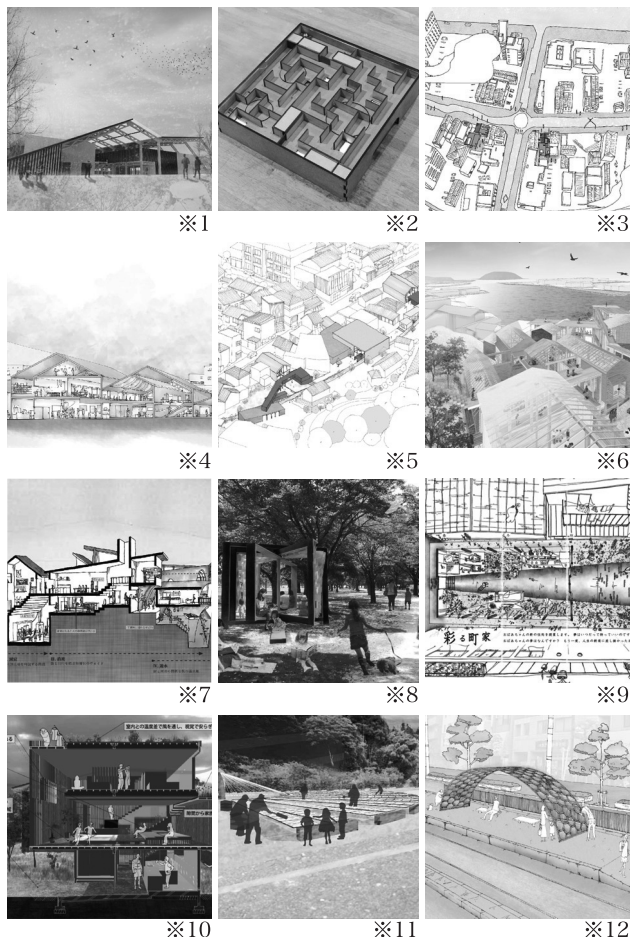
同ライトパーティーの様子

□学生の活躍

夏目 欣昇 (H5) 名古屋工業大学准教授

この一年の学生の多数の活躍を報告いたします。本文では特に卒業設計・制作の優秀者に与えられた光鯨会賞並びに学科長賞の概要を報告いたします。
■光鯨会賞 谷川浩一君(建築系)^{※1} 敷地は北海道石狩市本町地区。本作品は、影が薄れてしまった“石狩川と街のつながり”を取り戻すための漁港と道の駅を組み合わせた建築の提案です。豪雪地帯の課題である雪の重さを受け流すためにM字の大架構とし、さらに雪のエネルギーを活用する雪むろを設けることで、雪と共存していく建築を目指しました。
■学科長賞 鈴木慶太君(デザイン系)^{※2} “アナログゲームのデジタル化”により増幅する表現を、画面上ではなく現実のモノで実現させることを目指全く新しいボードゲームを製作しました。リバーシに似た単純な遊びで、光るブロックと動きが特徴です。

■他の優秀者 JIA 東海卒計コンクール銀賞^{※3} 杉山弓香さん^{※4} 平林永里加さん、佳作^{※5} 伊藤鈴さん^{※6} 境将司君^{※7} 田淵隆一君、日本建築学会設計競技支部入選 安部信汰君、愛知建築士会学生コンペ 2016 佳作^{※8} 境将司君・柴田沙希さん、WOOD FRIENDS 学生コンペ 優秀賞^{※9} 松岡弘樹君・福田雄太郎君、入選^{※10} 杉岡敬幸君・得津秀馬君、ほか、杉本組デザインコンテスト最優秀賞 保坂輝君、構造デザインコンペ 奨励賞^{※11} 玉木智大君・位田健太君・鈴木宏彰君、入選^{※12} 櫻木健司君・伊藤真太郎君・山田風人君・吉本隼君、ERI 学生デザインコンペ 2016 特別賞 田中匠哉君・山地玄君・安藤祐奈さん、建築新人戦 8 選 松岡竜生君、100 選 児山陽平君、伊藤誉君、文元健介君、ハードウェアコンテスト GUGEN 2016 秋月電子通商賞^{※2} 鈴木慶太君、日本建築学会東海支部学生優秀学術講演賞 荒川翔太郎君、鈴木宏彰君、根尾悠介君、田中大貴君、早川健一君、日本建築仕上学会学生奨励賞 田中大貴君。



2 | 卒業生は今

□本部

平野 真理 (H5) 大和ハウス工業(株)

大学卒業後に大和ハウス工業に入社しました。一般的にはハウスメーカーとして知られていますが、戸建住宅や賃貸住宅以外にも、商業施設、事業施設、その他、幅広い事業を展開しています。

私は夏目先生とは同級生で同じ若山研究室にいましたが、入社後は構造設計部に配属されてしまいました。それ以来、商業施設や事務所、工場、倉庫等の構造設計に携わっています。

最近に入社した頃に比べて、建物のバリエーションが豊富になり、物流施設やホテルなどの少し大きなものや、駅前での仕事も増えてきています。

この6月に名古屋支社は「ささしまライブ24地区」に移転しました。

新社屋は「グローバルゲート」の中です。まだ商業施設が開業していませんが、これから賑やかになっていきそうで楽しみです。

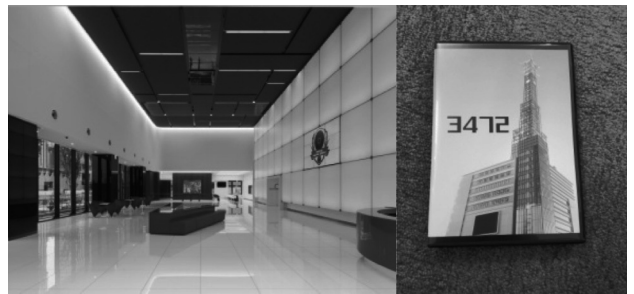


新社屋からの眺め

犬飼 高嘉 (H17) (株)伊藤建築設計事務所

「ひとつの建物をつくりあげるのに、実に多くの人間が携わっている」2015年12月に竣工した中京テレビ新社屋では総勢3472人。一人ひとりの力が同じ方向へ向かって結集することの凄さをまざまざと思い知り、数の重みに否が応にも設計者としての責務を痛烈に自覚させられました。また、この仕事を含め、他の設計事務所とのジョイントベンチャー方式の設計に数多く携わる機会を得ることができました。おかげで、他社が持つ多方面への知見が広がりましたし、この事は伊藤建築設計事務所に在籍する自分自身を客観的に見つめる良い機会にもなりました。他者の言動に込められた意図、自分に求められている意見や振る舞い方など、この辺りのぼんやりとした輪郭が明確になったように感じます。最後

に、本当に良い建物は建築主の想いによってこそ造られる、というのが一設計者としての私の素直な気持ちです。ともすれば彼らさえまだ気づいていないそれを察知し汲み取って、理想とする建物へと導くことが設計者の使命だと考え、日々幅広い知識の習得と技術の研鑽に励んでいきたいと思いをします。



エントランスホール

中京テレビ制作記念番組 DVD

松本 浩明 (H19) トヨタ自動車(株)

私は、2009年に入社以来、建築設備の担当として、社内工事の計画・管理に従事しています。自動車会社で建築？と思われるかも知れませんが、自動車の開発・製造に必要な施設は多岐にわたり、毎日どこかで工事が進行している状況です。最近ではさらに技術領域が広がっており、燃料電池車用水素ステーションや超低露点のドライルーム等、施設に求められる機能も高くなっています。私もこれまで、事務所空調の更新といった小工事から、実験施設の計画から設計、工事管理業務を行ってまいりました。2014年には研究開発棟建設PJのため1年間中国赴任し、日本で経験や常識が通用しない中、苦労もしましたが海外ならではのダイナミックな経験をする機会にも恵まれました。現在も世界各地で工場建設が進行中であり、多くの部員が現地にて指揮を執っています。

また、もはや一般常識となりました地球温暖化に対

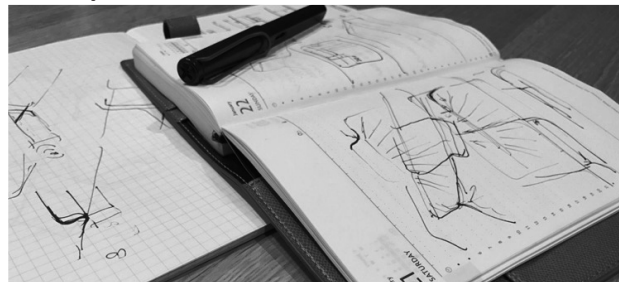
し、2015年には「Toyota環境チャレンジ2050」として環境保全に対する目標を社内外に示しました。社内における建築を担う当部では工場CO2ゼロ、水インパクト最小化への責任がこれまで以上に大きくなっています。このように変化の大きさと求められるレベルの高さは大変ではありますが、社内外の協力を受けながら計画を進めていくことは大変なやりがいを感じています。当部には名工大の諸先輩方も多く、日々指導をいただきながら業務を進めています。業務の1つ1つは小さいですが、よりよい将来のために着実に進めるよう日々を過ごしています。



大学院を修了後、就職したのは、sunwaveという住宅設備メーカーでした。主力の商材はシステムキッチン。ステンレスシンク絞りの技術で成長し、その後もパタパタくんなど、ユニークな発想のアイテムを開発し、発売していました。キッチンのデザインに関わりたいと思い就活を続け、希望通りの職種の内定をもらった唯一の企業です。ですが、業績不振により株価は低迷し、当方で約180円程度。不安を感じつつも、就職を決めたのを今でも覚えています。ところが内定後に、LIXILグループの子会社化が決定し、そのまま合併。自身はLIXILへ転籍し、今に至ります。就職して約7年、sunwaveという会社は大きく変化しましたが、幸運にもキッチンのデザイン・開発に携わることができています。

現在はプロダクトデザイナーとして、毎年あるモ

デルチェンジに向けて、日々試行錯誤しています。キッチンがくらしや食生活の中で今後どのような役割を果たすべきか、といった大きなところから、ビス一本一本の仕様のような細かい部分まで、幅広く開発に関わることができるため、いい経験になっています。これからも、使う人が幸せになるようなプロダクトを送り出すことができるよう励みたいと思います。



平成25年に学部を卒業後、竹中工務店に施工管理職として入社し、今年で5年目になります。仕事の内容も理解しつつありますが、このあたりから任せられる業務のレベルも上昇し、苦労と自身の成長を感じながら日々を過ごしています。

私はこれまで、3件の建設工事に携わっています。1件目の某団体中京本部ビルでは、極小敷地での超ハイグレード建築物で主に躯体工事と内装工事の担当をしておりました。右も左も分からない中で



でしたが、名工大OBである作業所長のご指導のおかげでなんとかやり遂げる事ができました。竣工・引き渡し

の時の気持ちは一生忘れることは無いと思います。現在は某企業の保養所の建設工事に携わっております。景観が良いのはとても素晴らしいことなのですが、滅多にないレベルの傾斜地での施工であり、非常に難易度が高い工事です。



公衆災害や周辺環境への影響を考えると、一つ一つの工事に慎重さと大胆さの両方が求められ、気が抜けない中でも節目で達成感を感じられる工事だと思います。2018年2月の竣工を目指して精一杯頑張っていきたいと思います。

□関東支部

2009年に大学院(博士後期課程)を修了し、8年間の中部支店での設計業務を経て、現在は建築設計本部にてBIM推進を行っています。BIMとは何かといった説明はあえて省略させて頂き、ここではBIM推進役としての日々を紹介します。

【開発】BIM関連の開発を行っています。BIMの技術解説本に書かれていることは基本操作であり、それなりの高度な開発は自分で試行錯誤するしかありません。とにかく挑戦!の日々です。

【相談室/教育】「教えることが最大の学習方法」と私は思っており、関係部署からのBIM関連の技術的な相談に対応しています。また大学でBIM教育を行っています。これらが自身の技術力向上に直結しているので、本当に感謝の日々です。

【仕様策定】BIMに関する様々な仕様を関係部署間で統一しておく必要があり、仕様の調整、検証、策定を行っています。今後のBIM運用に関わるので責任感があり、ほどよい緊張の日々です。

今後共、我が道を進むべく精進して参ります。



大学を卒業後、筑波大学大学院を経て、2013年に大林組に入社。入社後半年間は、東京都中野区の大学で施工管理を経験しました。ゼネコンは自社設計物件を必ず自社施工するので、カタチにしてくれる施工部隊あって成り立つ。設計採用であっても、現場のスピード感を肌で知り、職員・職人含め全員で建物を造り上げていることを自覚することが目的でした。5年経つ今でも、当時の現場メンバー・職人さんとは繋がりが強く、定期的集まっています。

その後半年間は、東京本社建築設計部で幕張イオン等、商業施設の設計補佐。2年目からは、四国支店へ配属され、ワクチン製造施設、四国瓦斯本店ビル等を担当しました。地方支店では人手が足りず、全て自分で行なうので、ひよっこだった私も社会人としてグンと成長できました。非常に濃密な2年3ヶ月を過ごした四国は、私の新たな故郷となりま

□関西支部

佐藤 茂 (S54) (株)安井建築設計事務所

名工大を卒業して37年、昨年、還暦を迎えました。構造設計・監理畑を専ら歩んできました。その間に、阪神・淡路大震災・東北地震および熊本地震を体験し、被災復旧対応などに微力ながら尽力してきました。また、震災後の法改正にも翻弄されながら？実務レベルで自然外乱（地震・豪雪・台風など）に真摯に、向き合うことが出来ました。

設計業務においては、病院（誕生）から小中高校および大学（教育）、各種企業（就職）ホテル（結婚）マンション（壮年）そして老健施設（老後）など、様々な建築に携わられた。また、警察署・裁判所および刑務所の設計にも参画したが、私生活ではお世話にならなかったことを幸いに思う。

思い起こせば、いろいろなことを、お金をもらいながら体験出来て、なかなかいい人生だったかな

飯田 邦博 (H3) (株)大林組

平成3年卒業後大林組に入社し、意匠設計、現場施工管理、生産設計の経験を経て現在に至ります。大学の卒論は「一太郎」、卒業設計は「手書き」の時代でしたが今では「BIM」の研究と推進に取り組んでいます。日本のBIM元年（2009年）から既に8年が経ち流石にBIMについては皆さんご存知と思いますがご自身の建築業にどの程度浸透しているのでしょうか。日本においてもインダストリー4.0の波がすごい勢いで押寄せています。そんな波を止めて上手く乗るツール、大学や会社における作業の「問題点」を解決するツール、それが「BIM」です。例えば設計情報はアナログ（紙）ではなくデジタル（データ）で生産に連携する。そうすれば正確かつ転記ミスが無くなります。それだけでも価値

した。短期留学気分で四国を満喫しました。社内でも地域や物件ごとに、新たな人との出逢いや繋がりを、無限に築けることが魅力だと感じます。

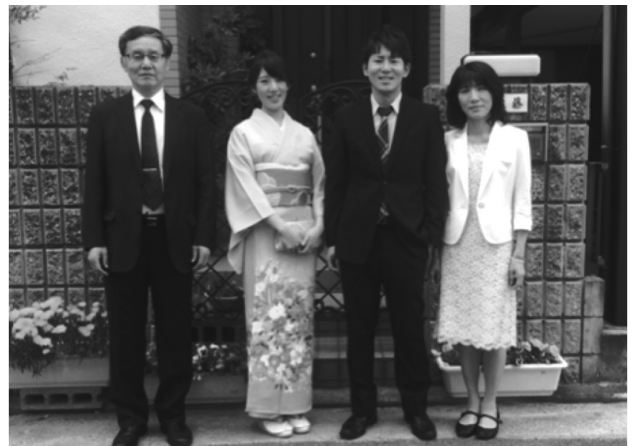
4年目夏に東京本社へ戻り、現在に至ります。事務所ビルを担当しています。6年目となり、基礎は習得したので、次のステップとして、卒業時抱いた「五感の建築」に向かって、オリジナリティを込められるよう日々成長したいと思います。



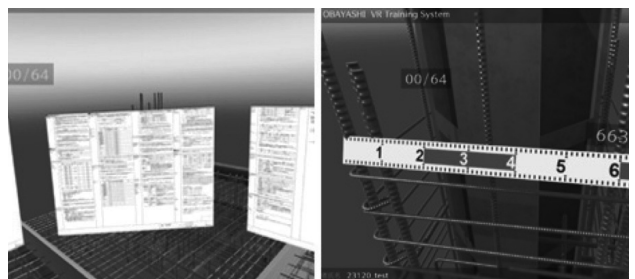
社会人として成長できた瀬戸内の海を満喫

と、感慨にふけています。その中で、代表作は何だと自問すれば、「家族」だと答えられます。

暦が還って、我ながら、素直で良い子（年）になりました。



があります。また最近ゲーム空間のリアルさは目を見張るものがありますが、更にVR技術も重なって正に仮想か現実か区別がつかなくなっています。AI、IOT技術により「人間が判断」する領域が狭くなり本当に設計作業や施工管理、その他の作業がゲームの世界となってしまうかも知れませんね。



仮想空間での作業が現実となる時代が到来する

3 | 光鯨会は今

□本部だより一本部長挨拶・総会報告

高木 晃二 (S57) 光鯨会本部幹事長 / (株)大林組



今年度も5月13日に評議員会、総会、懇親会がキャンパスで開催されました。評議員会では、昨年度の活動・会計報告、会則のうち会員資格の定義の改訂、本部役員・幹事の交代、今年度の活動計画・予算についてほかの協議がなされ、43名の参加による総会において報告されました。本部幹事会は29名中4名が交代し、新年度の活動を開始しています。

その後大学会館にて開催された懇親会には68名の方に参加いただきました。22名の院生・学生からはフレッシュな思いでの抱負をお話いただき、諸先輩方からは建築や仕事に対する篤い思いを語っていただきました。20代から90代と幅広い年齢に渡る卒業生が同じ場に会しグラスを交わす中で、同窓としての繋がりの大切さを改めて思い起こす機会となりました。

明治40(1907)年4月に名古屋高等工業学校の同窓会として発足した光鯨会は、今年度110年を迎えました。先輩方が築いてこられた歴史ある本会を、

□本部だより一春の見学会報告

田中 康範 (H2) 日建設計コンストラクション・マネジメント(株)

5月13日(土)に平成29年度の春の見学会が「ささしまライブ地区開発のブタイウラ」と題し、中京テレビ放送新社屋にて実施されました。あいにくの雨にも関わらず、43名もの方に参加いただきました。

始めに、中園昭彦氏(S58卒、名古屋市住宅都市局開発担当参事)より、ささしまライブ24地区のまちづくりについて「同地区の歴史」「同地区の位置づけ」「開発コンセプト・地区整備方針」「基盤整備」「民間開発」「まちづくり協議会とエリアマネジメント」について説明をいただきました。明治初期の名古屋駅の姿から始まり、同地区の変貌の様子、その様々な背景と開発の難しさを詳しく説明いただきました。次に、同地区の開発である今回の見学地、中京テレビ新社屋の計画について、設計者である犬飼高嘉氏(H17卒、伊藤建築設計事務所 主任技師)から説明をいただきました。用地取得段階から計画に関わり、その途中で東日本大震災もあり、震災後に初めて建設される放送局として、免震の採用と1週間インフラが遮断されても放送が継続できるBCP上の対応が取られているとのことでした。

その後、中京テレビ様のご厚意により、通常は見学できない稼働している放送局内部の見学を行いました。

さらに多くの方が繋がる会に盛り上げていきたいと思えます。月に一度開催している本部幹事会では2月より「イブニングレクチャー」と題して先生方のご好意により研究内容ほかの紹介をしていただいています。その様子は5月より光鯨会HPから繋がるFacebookでご覧いただけます。また幹事会の内容もHP上に掲載しています。皆さんからのご意見をお待ちしております。



ささしまライブ24地区のエリア開発と様々な施設の建設に同窓生が多く関わっていることは、非常に喜びと誇りを感じました。



□関東支部だより—関東支部の今年の活動

工藤 利昭 (S61) 光鯨会関東支部長 / 鹿島建設(株)



今年と来年、関東支部長を務めることになりました工藤利昭と申します。歴代支部長が築かれた伝統を継承しつつ、支部幹事としての15年間の経験を活かし、微力ながら力を尽くしたいと思います。

関東近県を中心に会員約500名が在籍する今年の関東支部は、役員・幹事・相談役合せて28名でスタートしました。昨年に続き2回目となる5月開催の新人歓迎会では、12名の新卒者の参加を得て、支部役員・幹事と交流しました(右の写真)。

今年の関東支部最大のトピックは、名工大建築系ネットワークキャンパスin Tokyo 2017です。3年前、岡本前会長、関戸前副会長、野呂副会長、母校の先生方、東京で活躍している気鋭のOBが立ち上げ、スタートコーポレーションの全面的支援を受けながら3回開催し、延べ30名の学生さんが参加されました。また、昨年の最終日は鶴飼学長にもご出席いただきました。

今年は4回目として、9月7～9日の3日間開催しま

□関西支部だより

宮本 和則 (S55) 光鯨会関西支部長 / (株)京都建築事務所

先日名古屋本部にて開催された光鯨会評議員会・本部総会に、ささしまライブ24地区に竣工した中京TV放送新社屋の見学会から参加させていただきました。あらためて中京地域での名工大の人脈を広さ、多様さ、深さとその活躍を、驚きとともに実感させられた見学会でした。

共通一次世代がポジションを得、活躍を始めて以降、偶然か否かちょうどバブル以降と重なるのですが、母校の卒業生に関西以西の出身者が激減したこともあって、関西での名工大の影響力が低下して来たのは否めません。関西支部としてはそれをなんとか食い止めて反転攻勢せんと、名古屋工業会大阪支部(S46)の岡崎副会長が本年度から支部長に就任)からの支援と連携も駆使して努力してきたつもりです。母校が元気で現役生の活躍を頻繁に耳にするは、OBにとっては何よりの自信と元気のもとですが、OBの活躍が現役生の耳に達することは、OBの母校に対する最大の貢献、恩返しであると思っています。

関西支部では毎年2月から偶数月の第一金曜日に、18:30より堂島の中央電気倶楽部で定例幹事会を開催しており、母校から先生や学生・院生をお招

す。これまでネットワークキャンパスを支えてきたOBの方々を関東支部幹事としてお迎えし、主催：名工大、後援：光鯨会関東支部として、定着を図って参りたいと思いますので、今後ご支援くださいますよう、よろしくお願いいたします。

恒例の関東支部総会・懇親会は、今年は、11月24日(金)に大手町サンケイプラザにて開催いたします。小野会長をはじめ光鯨会幹部の方々、母校の先生方にもお声掛けしております。関東支部全体として会員が集う唯一の機会ですので、是非、皆様のご参加をよろしくお願い申し上げます。



〒107-8502 東京都港区赤坂 6-5-30
鹿島建設(株) 建築設計本部 (03-6229-7229)
支部長 工藤利昭 (S61) 副支部長 鈴木孝彦 (S59)
副支部長 恒川真一 (H02) 連絡先 大島穰 (H12)

きして講演頂くと共に、OB各位にも体験を交えた講演を頂いて、知識・教養の向上とともにOBの活躍を披露、紹介する絶好の機会としています。6月2日は母校のプロフェッサー・アーキテクトである‘みかんぐみ’の加茂紀和子教授にご講演いただきました。次回8月4日は名古屋まちづくり公社のS57松井明子氏に講師を打診中です。ぜひ母校の友人・知人をお誘いの上、ご参加ください。

ところで何年かぶりに母校を訪れ一言苦言を呈すれば、NITechHallと名付けられた新講堂の姿です。一昨年、夏目先生より定例幹事会でもパスが紹介され、ある程度覚悟はしていたのですが、鈴木禎次賞を主催する大学の顔としては、あまりにもお粗末で恥ずかしい限りです。これは定例幹事会出席者のほぼ総意でした。予算の問題ではなく、なぜオープン・コンペにして選考しなかったのか。コンペだったという噂も耳にしましたが、それなら選考審査員のデザイン感覚を疑いたくなります。将来に禍根を残す建物として残念でなりません。

〒541-0057 大阪府大阪市中央区北九宝寺町 3-6-1
(株) 鴻池組 田邊太一 (06-6245-6315)
支部長 宮本和則 (S55) 副支部長 藤澤繁男 (S53)
連絡先 (事務局) 田邊太一 (S57)